

令和4年度 教育委員会組織目標

組織名	教育委員会	部長	教育次長（学校教育担当）池田 浩 教育次長（社会教育担当）本間金一郎
組織の目的・方向性	教育ビジョンの3つの基本目標である「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」をはぐくみ、「生涯を通じて学び育つ、創造力と人間力あふれる新潟市民」が育つよう支援するとともに、「自立した学びと開かれた学びを支援する学習環境」を整備するため、「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」の理念に基づいた事業を推進していきます。		

教育委員会組織目標

<p>特別な支援を必要とする子どもを含め、全ての子どもたちにこれからの社会をたくましく生き抜く力を育成するとともに、市民が自らの学びの成果を地域や学校に還元・貢献できる循環型生涯学習を推進するため、各所属が一体となり、機能的で実効性のある取組を目指します。</p> <p>このような取組を実現するため、生涯学習の中に位置づく学校教育・家庭教育・社会教育の役割を理解し、互いの強みを生かしながら連携・協働できる体制の構築に努め、次の5つの取組を重点的に実施します。</p> <p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。 2 学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。 3 地域と一体となった学校づくりを進めます。 4 誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。 5 市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。
--

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	2
取組結果	<p>令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、様々な工夫により取組を進めてきました。</p> <p>重点目標1では、新型コロナウイルス感染症の影響を考え、様々な工夫を行いながら教育活動に取り組みました。生活学習意識調査では「宿題をしている」と回答した子どもの割合が小学校では90%を超えるなど学習習慣は定着していますが、目安の時間まで自己調整して学習に取り組む子どもが減少するなど、目標数値を下回る結果となりました。</p> <p>一方で、同調査「学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりしている」において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した子どもは増えています。</p>				

重点目標2においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、講座を開催できなかったものがありましたが、新たにオンライン見逃し配信や親子特別講座を実施することで、受講者層の拡大につながりました。にいがた市民大学受講者の満足度は88%となり、目標値を達成できませんでしたが、親子特別講座の満足度は100%となりました。

重点目標3では、コミュニティ・スクールを導入した165校において「学校教育ビジョン」を保護者、地域住民と学校が共有し、地域と学校が共通の課題について熟議することができたこともあり、制度として機能していると回答した協議会の委員の割合は93%と、目標値を大きく上回りました。今後は新たな取組み（コミュニティ・スクール講座）により、さらに充実させていきます。

重点目標4のうち、子どもたちの健康増進については、新型コロナウイルス感染症の影響による運動機会の減少などで肥満傾向の割合が目標値を達成できませんでした。一方で、学校園における感染症対策については、日常の基本的な感染対策の徹底と、学校園内での感染者発生時における学級閉鎖等への適切な対応により、大きく感染拡大するような例はありませんでした。

また、「特別支援教育課」を新設し、特別な配慮を要する子ども一人一人に必要とされる教育的ニーズを正確に把握し、長期的視点で一貫した的確な支援を行いました。

重点目標5は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、それぞれの研修の目的に照らして対面研修と非対面研修を使い分け、実施方法を工夫して実施したことにより講座受講者の活用度を高め、働き方改革の推進にもつながりました。

今後の方向性

重点目標の達成状況を踏まえながら、新潟市総合計画2030および新潟市教育ビジョンに基づき、「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育て、主体的に物事を成し遂げることができる人材の育成に取り組みます。

また、学校教育と社会教育の一体的な取組みをさらに進め、学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくりを進めていきます。